

新潟市教育委員会 令和元年6月 定例会会議録

日時	令和元年6月28日(金) 午後3時30分			
場所	白山浦庁舎5号棟3階 教育会議室1			
教育長	前田 秀子		/	
出席委員 (8名)	佐藤 久栄		出席委員	小野沢 裕子
	上田 晋三			市嶋 洋介
	田中 賢一			渡邊 純子
	渡邊 節子		欠席委員	/
	山倉 茂美			/
会議出席 教育委員会 事務局職員 (20名)	職・氏名		職・氏名	
	教育次長	高居 和夫	学校支援課長	齋藤 純一
	教育次長	古俣 泰規	生涯学習 センター所長	枝並 素子
	教育総務課長	渡邊 剛	中央公民館長 補佐	竹田 由里子
	学務課長	高橋 光久	中央図書館長	吉田 英津子
	施設課長	高橋 裕幸	教育総務課 課長補佐	佐藤 夏樹
	保健給食課長	東 理 守	教育総務課係長	桑原 勝俊
	地域教育推進 課長	緒 方 猛	教育総務課主査	山 口 学
	学校人事課長	池 田 浩		
	教育職員課長	浅間 孝之		
総合教育 センター所長	小川 裕一			
他部署 出席者(0名)				

開会	時刻	午後3時30分
	宣言者	教育長
報告 (5件)	新潟市立小中学校児童生徒・学級数推計について	
	市内小中学校の適正配置の状況について	
	通学区域の見直しについて	
	令和2年度 新潟市立学校教員採用選考検査の出願状況について	
	教科用図書調査員の委嘱について	

## 第1 開会宣言

○教育長

午後 3 時 30 分 開会を宣言する。

ただ今より、6 月の教育委員会定例会を開催いたします。

現在、報道はございません。なお会議中に報道関係者より、委員会の撮影及び録音したい旨の申し出がありましたら、これを許可することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声)

では、そのように決定します。

## 会議録署名委員の指名

○教育長

日程第 1「会議録署名委員の指名」を行います。新潟市教育委員会会議規則第 11 条により、会議録署名委員に上田委員及び田中委員を指名します。

## 第2 報告案件

○教育長

次に日程第 2「報告案件」です。

はじめに、「新潟市立小中学校児童生徒・学級数推計」について、教育総務課から説明をお願いします。

○教育総務課長

各小中学校の児童・生徒数と通常学級数の今年度の実数と令和 7 年度までの推計値がまとまりましたので報告いたします。

資料の 1 ページ目をご覧ください。

推計の概要をまとめた資料となっております。本日はこの概要版でご説明いたします。

1の「児童数・生徒数・学級数推計」についてです。今年の、市立小中学校の通常学級の児童生徒数は、小学生が 3 万 7,382 人、中学生が 1 万 8,191 人で、学級数は、それぞれ 1,410 学級、598 学級です。昨年度と比較すると、小学生は 636 人の減少、中学生は 273 人の減少となっています。令和 7 年度の推計では、令和元年度と比較して、小学生が 3,468 人減の 3 万 3,914 人、中学生が 1,224 人減の 1 万 6,967 人と見込んでいます。

次に、2の「行政区別 児童生徒数推計」についてです。このグラフは、令和 7 年度までの、行政区別の児童・生徒数の推計値を表したものです。

次に裏面をご覧ください。

3の「小規模校・大規模校の推移」でございます。この表は、令和元年度と令和 7 年度時点の小学校・中学校における小規模校、大規模校を一覧にしたものです。教育委員会が考える適正規模は、記載のとおり、小学校 12～24 学級、中学校 9～18 学級です。この一覧では小規模校のうち、小学校 6 学級以下、中学校 3 学級以下の学級を記載していません。

まず小学校の大規模校の中で、今後さらに大規模化が進行することが見込まれる主な小学校として、鳥屋野小学校が令和元年度では 33 学

級ですが、令和7年度には39学級となる見込みです。また、上山小学校が令和元年度では27学級ですが、令和7年度には28学級となる見込みです。

なお、鳥屋野小学校区については、昨年度、地元コミュニティ協議会から現在の敷地内に校舎を増築する旨の要望書の提出を受けており、令和6年度までに校舎を増築し、教育環境を整備します。また、新通小学校は令和2年度に新通つばさ小学校が分離新設し、新通つばさ小学校が467人で17学級、新通小学校が470人で18学級になる見込みであり、両校とも適正規模化する見込みです。

次に、小学校の小規模校の状況についてですが、今年度、複式学級を編成する学校は笠木小学校、越前小学校の2校となっております。そのうち、越前小学校は令和3年度に複式学級が解消する見込みです。一方で、令和2年度から小瀬小学校が再び複式学級となり、新たに令和3年度からは新関小学校が、さらに令和6年度には南浜小学校、豊栄南小学校、新飯田小学校が複式学級となる見込みであり、笠木小学校と合わせて6校が令和6年度において、複式学級となる見込みです。

次に中学校の状況ですが、上山中学校、内野中学校の大規模化が進行する見込みです。小規模校については現在、複式学級を編成する中学校はありません。

次のページになります。3ページをご覧ください。

3ページから5ページまでは各小中学校の児童生徒数と学級数の、令和元年度の実数値と、令和2年度から令和7年度までの推計値を、行政区順に一覧とした資料でございます。前半の3、4ページが小学校で5ページが中学校の一覧となっております。

次に6、7ページでございますが、各小中学校をそれぞれ学級数別に並べた一覧となっております。中央のタテに学級数を記載しております。それぞれ該当する学級数と学校名について、左側が小学校、右側が中学校を記載しております。6ページが令和元年度の実数値で、7ページが令和7年度の推計値ということで一覧を記載しております。

なお、児童生徒数・学級数の推計値の詳細は市ホームページで公表しております。

報告は以上です。

○教育長

ただいまの説明にご意見、ご質問等ございましたら挙手をお願いします。

(なし)

それではこの件については以上とさせていただきます。

次に、市立小中学校の適正配置の状況については、校名を公にしますと各地域に誤解や不要な心配をお招きかねないということから非公開としたいと思いますが、ご異議ありませんでしょうか。

(異議なしの声)

それでは公開案件の終了後に非公開案件として再開し、報告をします。

次に、通学区域の見直しについて、教育総務課から説明をお願いします。

○教育総務課長 資料ですが、東区東中島 2 丁目の通学区域の変更(案)についてという資料になります。

こちらについて説明させていただきます。ページは 10 ページになります。

令和元年 5 月 17 日に東区の「中児第三自治会」から教育長あてに通学区域の指定校について、現在、同一自治会内に中野山小学校区と東中野山小学校区の 2 つの学校区が混在していることから、東中野山小学校区に一本化していただきたいという通学区域変更に関する要望書が提出されました。

要望書提出までの経緯は、平成 30 年に中児第三自治会長が相談に来られ、その後、中児第三自治会内で協議を経て、要望書提出となっております。

現在の中児第三自治会の通学区域の状況については、11 ページをご覧ください。

図面の黒い線が校区線、赤い線で囲った青色の部分と一部緑色の部分をあわせて、中児第三自治会になります。

中児第三自治会の半数以上が東中野山小学校区となっておりますが、西側の一部、緑色の部分が中野山小学校区という状況でございます。

10 ページに戻りまして、このたびの通学区域の変更を行う理由としては、1つの自治会が 2 つの学校区に分断されている状況では、円滑な自治会活動を行っていく上で支障が生じていること。また、地域コミュニティの一体化、児童・生徒の学校活動の継続性、児童及び高齢者の見守り自主防災等の活動にも影響があり、安心して暮らせる地域づくりの観点から、当該地区を東中野山小学校区への通学区域の変更を希望する旨の要望書となっております。

今後の予定としては、中児第三自治会の関係コミュニティ協議会からの同意書もすでに提出されていることから、7 月の教育委員会定例会において、協議会案件としてご協議いただき、8 月の教育委員会定例会において、付議案件として提案し、ご承認いただきたいと考えています。

通学区域変更の年月日としては、令和 2 年 4 月 1 日を予定しています。また、通学区域変更の対象者は、変更年月日以降、該当通学区域に居住する児童生徒としています。

以上で説明を終わります。

○教育長 ただいまの説明にご意見、ご質問等ございましたら挙手をお願いします。

○山倉委員 令和 2 年度から変更ということなのですが、必ず全員が変更ということ

- になりますか。希望制になりますか。
- 教育総務課長 基本的には変わりますが、在校生は卒業まではそのままになります。
- 山倉委員 行きたい方は行ってもいいし、残りたい方は卒業までは残りたいということによいですか。
- 教育総務課長 そうです。
- 市嶋委員 これから入学予定の児童の保護者の方には、どう周知しますか。
- 教育総務課長 新しく入学する方には、どちらの学校に入学ですといった通知がいきますので、その中で周知します。
- 市嶋委員 今までこの学校に行くつもりでいた人にも事前にわかるということでしょうか。
- 教育総務課長 その点については、町内会の方である程度周知していただくものと思っております。
- 佐藤委員 今回の件は自治会からこういう依頼があつて、校区の変更ということなのですが、教育委員会として進めている地域との連携による教育ということ考えると、理想的な形になっていくわけですね。
- この他に同じような課題を抱えている学校はあるのかどうか。一つ二つであればよいですが、沢山あるようであれば今日でなくてもよいので、次回の定例会にでもそのリストを出して教えていただきたい。
- その上で、教育委員会として理想的な形に、積極的に校区の変更をしていった方が、自治会の皆さんも地域のまとまりとしてもよいと思いますし、積極的にしていったほうが良いと思います。
- 教育総務課長 同じようなケースは他にもありますが、それについては地域によって事情が違うところもありますので、そのあたりは整理したいと思います。
- 教育長 他にございますでしょうか。ないようであればこの件については、以上とさせていただきます。
- 次に、令和2年度 新潟市立学校教員採用選考検査の出願状況について、学校人事課から説明をお願いします。
- 学校人事課長 学校人事課です。
- 令和2年度新潟市立学校教員採用選考検査の出願状況について報告します。
- 報告の12ページをご覧ください。
- 表に、今年度の出願者数と倍率及び昨年度の出願者数をまとめました。最初に小学校です。昨年度出願者数163人から、今年度の出願者数が218人に増え、倍率は2.73倍でした。昨年度の倍率は2.04倍でした。次に、中・高共通についてです。各教科の出願者数は表の通りです。中・高全体としては、210人が出願し、倍率は6.00倍でした。昨年度の倍率は4.17倍でした。特別支援学校教諭は、13人が出願し、倍率は2.17倍でした。昨年度の倍率も2.17倍でした。養護教諭は、59人が出願し、倍率は5.90倍でした。昨年度の倍率は3.75倍です。栄養教諭は、12人が出願し、倍率は、6.00倍でした。栄養教諭の採用

選考検査は、今年度初めて行います。

全体の出願数は、昨年度の出願者数367人を145人上回る512人でした。全体の倍率は、3.85倍で、昨年の2.76倍よりも上がっています。

委員の皆様におかれましても、昨年度の新潟県の小学校の倍率が1.2倍で、全国最低レベルであったことは、報道等を通じてご存じかと思えます。また、新潟市においても、昨年度は、県と分かれて市として採用選考検査を行って以来、最低の倍率でした。

学校人事課では、これまで定例教育委員会でもお伝えして参りましたが、出願者数を増やすため様々な取組を行ってきました。具体的には、検査内容や日数の見直し、リーフレットの工夫、SNS等を利用した広報活動の充実、これまで行っていなかった県内私立大学での説明会の実施等です。

出願者数が増加した背景には、これらの取組の成果が、ある程度、上がったものと考えております。その他の背景としては、すでに報道されておりますが、今回の試験日が、首都圏の採用選考検査日とずれたことも、出願数が多くなった要因の一つと考えております。

なお、第1次検査を、7月7日(日)に高志中等教育学校を会場として行う予定としております。

以上で報告を終わります。

○教育長

ただいまの説明にご意見、ご質問等ございましたら挙手をお願いします。

○山倉委員

中学校などでは先生が休むと代替りの講師の先生がなかなか来ないといった状況です。現場の中学校の教頭先生も、急に休まれても講師の先生が来ないので学校の中でなんとかやりくりしていると聞きます。

出願者数が増えるということは、講師の先生も増えるということがあるのでしょうか。

○学校人事課長

新潟市は講師の登録制度を取っていて、講師をやりたいという方を登録して条件が合ったところに配置していくことを繰り返しています。数年前は講師の登録者に対して必要な学校が少なかったので、登録者の中から配置をしても常に待機している登録者がいたという状況でしたが、昨年度あたりから4月に配置すると登録者がまったくいないという状況でした。

その背景には、何年かかけて先生になりたいという方が登録者として残っていたのですが、最近、倍率も低くなってきているので、なりたい人はどんどん先生になれてきていて登録者数自体が減ってきています。今回出願者数が増えたことによって採用されなかった方がそのまま登録していただければ講師の枯渇状況は少しは改善される可能性はありますが、他県から受検している方もいますので、そういう方は合格しなくてはご自身の出身地の方で採用されたり講師をされたりする場合もありま

すので、単純に出願者数が多くなったからと言って講師の状況がすぐに改善するとは結びつかない状況かと思えます。

○田中委員

6月25日の新聞で、県内教員の出願倍率大幅増、新潟県1.2倍から1.6倍、新潟市小学校2.0から2.7倍とあります。倍率が上がってきたということは大変喜ばしいことだと思います。

上がった理由としては、今ほど課長がお話しされたように内容を見直しされたとか、リーフレットを工夫したとか、広報活動に取り組んだということで大変すばらしいなと思っております。感謝申し上げます。

新聞を読みながら非常に気になったのが県のコメントにもありますように「出身高校別で19年度は県外が1割ほどだったが、20年度は4割を占めている」とあります。昨年出願者全体の数から割り出すと1割は約100人、今年の4割は約600人になります。単純に引きますと、県内の高校出身者は1,000人程度で決して増えていないのです。もしかすると減っているかもしれない。新潟県の数値からするとこうなのですが、新潟市も同様なことが言えるのではないかと危惧しています。

先ほど課長の言われたように、首都圏の受験日とずれている。数年前はやはりずれていたと思いますが、3、4年前くらいから同じ日になって、併願ができなかったのですが、今回は併願ができるということで県外から新潟県あるいは新潟市を狙って受検している学生が多いのではないかと気がします。

先ほど山倉委員がおっしゃったように講師の問題にも関わりますが、新潟市の試験日は日本全体の中では、相当早い方だと思います。一番早いのは高知の6月22日、その次が北海道の6月23日、その次にやってくるのは新潟の7月7日なのです。

7月7日に受験するのは栃木県、静岡県、それから関西程度なのです。つまり、関東圏はその次の週なのです。ですから関東圏の人たちは新潟市を、なんというか腕試しというか、そんな風に考えてもらおうと大変困るのです。併願しておいて両方受ければ、地元に行こうかという人もいるかもしれない。倍率は上がってよいのだが、もしかすると最終的に辞退者が増えるのではないかと心配しています。ある程度の数を決めて試験を行って採用者を決めていくわけなのだが、最後の段階になって辞退者が多くなる場合もある。

その辺について課長はどのようにお考えになっているのか。そういう恐れをなくすために何かお考えがあればお聞かせください。

○学校人事課長

まず報道に出た県の出願者数が約4割ということで、新潟市も出身高校別で分析をかけてみました。例えば、小学校では昨年度は県内高校出身者が137人、84%、今年度出願者が153人、70.2%でした。数だけは増えていますが、県外から出願している方が小学校で昨年度26人だったのが、今年度65人になっています。全体では今年度、小学校が70.2%が県内高校出身者、29.8%県外出身となり、昨年よりも県外の割



合が高くなっています。今ほど田中委員からお話があったように、それらの方で合格しても出身地で合格したらそちらに行くという方がいる可能性もあります。新潟市でも昨年度から追加合格の制度をつくってあります。1回目に合格者を出したが、辞退者が出た場合については、単純にその数を繰り上げるわけではありませんが、試験結果について、教員としてやっていける方を繰り上げて、質を担保しながら合格者数を保つということをしています。単純に辞退者が出たからそのまま欠員になるということにはしていません。

○田中委員 これからの未来の新潟を背負う教員ですので、ぜひいい先生をしっかりと確保していただきたいと思います。

○教育長 他にございますでしょうか。

○渡邊節子委員 取り組みの成果が表れていると考えられると思うのですが、手ごたえとしては取り組みの成果で色々な中で、例えば大学を訪問するですとか、SNSの反応とか、そのあたりでまた今田中委員が言われた、どれくらい辞退者があるかということと関連して決めることになると思いますが、分析はまだかと思いますが、特に何が手ごたえとしてあるのでしょうか。

○学校人事課長 例えば、今まで行ったことのなかった大学に説明に行って、初めてその大学から出願した方がいたということもありましたし、情報に関してはSNSで、新潟市はツイッターをやったのですが、こまめに情報を流したり、それは採用選考検査の情報だけでなく、年間を通して新潟市の教員の取り組みであるとか、成果とか、先生の働く喜びとか、また働き方改革をやっていることも教員採用のツイッターで流しています。

そういうような新潟市の教育全体への理解を通年で発信し続けることが来年度以降、願わくば他県の方も新潟で先生になってみたいという全国に向けての発信は、成果が上がってほしいなと思って続けているところです。

○渡邊節子委員 生の若手の先生の声なども入ると尚もいいのかなと聞いていて思いました。

○学校人事課長 ご意見ありがとうございます。

○教育長 他にございますでしょうか。

○渡邊純子委員 今年度の採用人数は133人ということですね。議会からも質問が出たようですが、大量に退職者が出るということもあって、それに対する採用予定者ということなののでしょうか。

○学校人事課長 採用予定者数の決定は非常に難しい要素が近年増えてきて、退職される方の中で再任用を希望される方がいたり、それから年度末に定年ではなくて、普通退職というか希望退職される方もいたりしてこの数というのは年度初めにかなり慎重に検討して決めています。年度末に大量に退職される方の中で多くの方が再任用されて、これよりも減らすことはないのですが、多くの方が再任用を希望しなかったときには少しこの数を増やしたりというように流動的にしていますので、この結果「程度」と

いうふうにしています。

現在のこの数は、ある程度予想した数の退職者が出た後もこの程度採用しておけば欠員が急に増えることはないというふうな計算のもとで設定しています。

○渡邊純子委員 欠員が出ている学校へ補充したりして、教務主任の先生が授業に入ったりということを耳にしていますが、その辺のところは働き方改革ということもありますので、しっかり先生方の負担にならないように取り組んでほしいなと思います。

○学校人事課長 単純にこの採用数を増やすと欠員が減り講師が増えるかという、講師をやっていた方が採用されると講師の登録者が減りますので、慢性的な講師不足については、教員になりたい人を増やしていくなど、この数だけでは単純につながらない面もありますが、繰り返しになりますが、教員の魅力などを発信することによって新潟市でなりたい人を増やす、そして、講師の登録者も増やす、また欠員というのは病気休暇の方も増えているという現状もありますので、働き方改革メンタルヘルスをしっかりと取り組みながら病気で休む方も減らしていくことが大事なことだと考えています。

○教育長 他にございませんでしょうか。

○小野沢委員 今現在、講師に登録している人が今回の採用試験に応募している人は何人くらいいますか。

○学校人事課長 今手元に数字は持ち合わせていませんが、将来教員になろうと思わないで、ずっと講師でよいという人もいらっしゃいますが、若い方で何年かかってでも教員になりたいという方はいると思います。人数や割合は今持ち合わせていません。

○小野沢委員 出願者が増えて、その中から優秀な方が新潟市に来てくださるといいのですが、先ほどの田中委員のご発言にもあったように辞退者が出てきた場合、辞退者というのはいつ頃わかるものでしょうか。

○学校人事課長 辞退者は、新潟市は新潟県に比べると少ないのですが、時期はまちまちです。他県の試験に受けたので辞退しますといった方もいますし、教員になろうと思っていたけれど止めましたといった人もいますし、過去には採用されたが大学が卒業できなくなったので、辞退しますといった人もいました。

3月までの間にぽつぽつと出てくるといった状況です。

○教育長 他にございますでしょうか。

○田中委員 内容の見直しということで様々な点から見直しをしていただいたなと思っていますが、とりわけ免許取得も加味したというのは大変ありがたかったと思っています。

それから、今年から電子申請を始めたわけですが、この辺については手ごたえというか、どれくらいありましたか。

○学校人事課長 電子申請で出願した方は4割くらいいます。残り6割くらいはまだ紙で

書いています。

○田中委員

私たちの作業としては、電子申請によって業務の負担は減りました。学生には非常によいし、首都圏はほとんど電子申請だと思いますので、本当に工夫されたんだなと思います。

○教育長

他にございますでしょうか。特にございませんでしょうか。それではこの件については、以上にいたします。

### 第3 次回日程

○教育長

続きまして、日程第3次回の日程について教育総務課から説明をお願いします。

○教育総務課長

7月につきましては、7月26日の金曜日、午後2時から、8月につきましては、8月30日の金曜日、午後3時30分から定例会を予定しています。

### 第4 公開終了

○教育長

これで公開案件を終了します。これより定例会を非公開といたします。傍聴人・報道はご退席ください。

### 第5 報告案件(非公開)

○教育長

これより定例会を再開し、報告案件に入ります。

はじめに、市内小中学校の適正配置の状況について、教育総務課から説明をお願いします。

「市内小中学校の適正配置の状況」について報告

○教育長

次に、教科用図書調査員の委嘱について、学校支援課から説明をお願いします。

「教科用図書調査員の委嘱」について報告

### 第6 定例会閉会

○教育長

以上で、定例会を閉会いたします。

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

上田 晋三

署名委員

田中 賢一

